

# CAT<sup>®</sup> CLUB

2022

NO.

115

お客様見聞録 >> File 16 株式会社ほくうん

物流を担い、  
100年企業を目指して  
歩み続ける。



CAT<sup>®</sup>

# Team Caterpillar

Chief Engineer



札幌北営業所に勤務する矢作隆夫は、北京冬季五輪でも銀メダルの活躍を見せた女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」が拠点を置く北見市のそば、<sup>あばしりくんとつべつちやう</sup>網走郡津別町の出身。実家が農場を営んでいることもあって、子どもの頃からトラクタや農機具を身近に感じて育ち、中学時代に「建機の整備士になる」ことを決意。高専の電気科を卒業後、2006年にメカニックとしてキャタピラーへの入社を果たした。「オペレータのアルバイトをしていたときに、世界最大手の建機メーカーだと知り、就職するならここだと心に決めました」フィールドメカニックとして16年のキャリアを積み重ねた矢作は、“エリアの顔”ともいえるチーフエンジニアの役職を担い、メカニックチーム、営業所の仲間たちと力を合わせ、お客様サポートに当たっている。

私が勤務する札幌北営業所は、札幌市、小樽市、石狩市にまたがる道央エリア300社以上を3名のメカニックでサポートしています。北国という土地柄、除雪に携わっているお客様も多いため、3交代24時間体制のシフトを組み、深夜から早朝にかけての救急要請にも迅速に対応できるよう備えています。さらに現在進行中の北海道新幹線(新函館北斗-札幌間)の工事に投入されている多数のCatホイールローダと油圧ショベルの保守メンテナンスも私たちの仕事です。

全国に数ある営業所の中でも、トラブル対応の出動数、取扱機種幅の広さにかけては私たちの営業所がトップクラスだと思います。個々のメカニックの技量レベルの高さにも自信を持っています。

14名の少人数体制で広いエリアをカバーしていることもあって、営業所全体のチームワークも抜群です。マシンセールス、部品サービスセールス、メカニックが業務の枠を超えてお互いに助け合い、みんなが「お客様のために」一丸となって日々の仕事に臨んでいます。多忙な状況

が続く中でもモチベーションやムードを盛り上げるため、日頃から感謝や励ましの言葉を掛けるように心掛けています。

私自身の目標は、10年後、20年後も今と変わることなく現場に立ち続けること。「矢作が来たから大丈夫だ」とお客様から頼りにされる存在になれるよう、これからも研鑽を積んでいきたいと思っています。

メカニックとして一番上を目指し、「特級建設機械整備技能士」の資格も取得しましたが、いかに多くの機械に触り、いかに場数を踏んできたかが、現場では物を言います。尊敬する先輩からも「百聞は一見に如かず。実際に機械を見て、触れ」ということを叩き込まれました。最新の機種が入ってきたときには、できるだけメカニック全員で納車点検や試運転を行い、改良点などを確認するようにしています。

もう一つ、当面の目標は、北海道新幹線の開業(2030年予定<sup>\*</sup>)を見届けることです。本誌の読者の皆さんが新幹線に乗って北海道にいらっしゃったときには、キャタピラーの製品が活躍したんだと思っていただけると嬉しいです。

「少人数の営業所ですが、責任感とチームワークでは日本一を目指しています」



日本キャタピラー  
札幌北営業所

矢作 隆夫  
Takao Yahagi

LET'S DO THE WORK.™

<sup>\*</sup> 新函館北斗-札幌間、新青森-新函館北斗間は2016年3月に開業しています。



ドイツ、オーストリアを中心として欧州各国へCatパワーシステムの販売・サービス網を展開するZeppelin Power Systems社(以下、Zeppelin社)は、Viking River Cruises社(以下、Viking社)のパートナーとして、同社が保有するクルーズ船の維持管理を担っている。

Zeppelin社のサービスディレクター、Jan Volkert Wibellは、Viking社との関係が始まったのは10年以上前のことだと語る。「最初は2、3隻の船のサポートから始まり、やがて12隻の船にサービスを提供するようになりました。このとき、Viking社はCat船舶用エンジンを使い続けることを決めたのです」

現在、Zeppelin社は、200基を超えるCat船舶用エンジンを搭載した50隻以上のクルーズ船に対し、24時間体制のサポートを提供している。「Viking社はクルーズ船を欧州全域にわたって切れ目なく稼働させています。しかも、それらは3月末から11月までのクルーズシーズンの間、継続的に運航しています。点検整備や補修作業に充てられるのはシーズンオフのごく短い期間に限られるため、私たちは欧州各地の適切な場所に停泊基地を設置し、効率的なアフターサービスを実施しています。ある年の冬には16回のフルオーバーホール、25回のトップエンジンオーバーホール、100回以上の点検を行いました」

リバークルーズビジネスでは、たった1度の航海が中止になっただけで数十万ユーロの損失を被る。Zeppelin社は予防保全についても万全を期すため、配送業者の協力を得てViking社に独自のオイル分析ソリューションを提供している。「航海中の各船舶から500時間ごとに採取したオイルサンプルを船上で受け渡しする特別契約をDHL社と結び、年間1,500個以上のオイルサンプルをミュンヘンのラボに送って分析検査しています。分析レポートは48時間以内にViking社へ届けられるため、異常の予兆が見つかった場合、速やかにエンジンを停止してコンタミネーション(異物混入)の有無を再確認し、適切な処置を施すことができ

ます。万一エンジン交換が必要になったときも、予備のエンジンをストックしており、欧州全土へ72時間以内に配送することが可能です」 Zeppelin社は、繁忙期の突発的なトラブル発生時にも出航の遅れや運休を極力避けるべく、ドイツとオーストリアにViking社専門のテクニカルサービスチームを配備。さらに365日24時間対応の専用ヘルプデスクを設置し、船舶に精通したスタッフによるアドバイスを提供している。「年間約400件の問い合わせがあり、それらの多くは時間外に寄せられます」 Zeppelin社でOperations Center Directorを務めるTimo Glietzはそう語る。

Viking社の副社長であるThomas Bogler氏は、「Zeppelin社が当社に提供してくれているアフターサービスは、クルーズ業界におけるフルメンテナンスサービスの革新的な一歩となるでしょう」と話す。そうした賞賛にもJan Volkert Wibellは謙虚な態度を崩さない。「私たちの目標は、黒子に徹し、Viking社のクルーズ船で休暇を過ごす人々を幸せにすることに尽きます。乗船しているお客様がバカンスを満喫できるよう、目立たないように最高の仕事を続けていかなければなりません。今後もViking社のパートナーとして、より良いソリューションを追求し、共に成長していきたいと考えています」

## Technology Showcase

# 欧州全域に展開する リバークルーズビジネスを 24時間体制でサポート。

Viking River Cruises社は、スイスに本社を置く世界的に有名なリバークルーズ会社。オランダのアムステルダムから黒海まで、欧州全域の河川にクルーズラインを展開し、上質なバカンスを求める人々から大きな人気を集めている。同社のリバークルーズビジネスを支える50隻以上の客船。それらの安全かつ確実な運航をキャピタラーは24時間体制でサポートしている。



Viking社のクルーズビジネスを長年、舞台裏から支えてきたZeppelin社のサービスディレクター、Jan Volkert Wibell。



Viking社の客船に採用されているCat C32船舶用エンジン。



写真右上：毎朝一番に出社して打ち合わせなどをエネルギーにこなされている森高義男様。  
写真右下：農地に購入した敷地の除雪を行う910。雪解けを待つ蕎麦畑になります。



株式会社ほくうん

代表者：森高 義男  
 本社所在地：北海道札幌市東区中沼町31番地4  
 設立：1987年  
 従業員数：332名(連結従業員数 575名)  
 事業内容：貨物自動車運送事業、自動車運送取扱事業、  
 自動車分解整備一般の事業、クレーンのリース事業など  
 URL：https://www.hokuun.com/

ご依頼にも対応できる機動力が当社の強みです」  
 ほくうん様は、これらの膨大な数の車両を独自の配車システムで管理し、迅速かつ確実な輸送を実現。加えて、車両1台ごとの毎日の利益とコスト(燃料代や人件費、高速道路料金など)を分析できる損益計算システムを構築し、収益性の向上につなげています。毎週変動するガソリンの価格表を見てドライバーに給油先を指定するなど、コスト管理も厳格に行っています。  
 「無駄は徹底的に削り、必要な部分には大胆に投資するのが、創業以来の方針です。コストカットした分を、社員への還元と新車の購入に充てていく。トラックもテクノロジーを取り入れてどんどん進化していますし、ドライバーにとっては“自分の城”みたいなものですから、きれいな車に乗ればモチベーションが上がります。ドライバー不足と言われる中で、さらなる成長に欠かせない人材を集めるために、魅力的な環境と条件を整えることに力を入れています」  
 ほくうん様は、物流サービスを自社一貫体制で行うため、車両整備や車検を担当する「長栄自工」、各種装備品の設置を担う「東

700台のトラックを厳格に管理し、高い収益性を実現。

ほくうん様は、札幌市東区に本社を構える総合物流会社。北海道で収穫された農産品や冷凍・加工食品を中心に、日用雑貨、家具、機械やタンクなどの重量物まで多岐にわたる貨物を取り扱い、北海道-本州間の物流を担っています。創業社長の森高義男様は、地元の物流会社でトラックドライバー、営業兼配車係として17年間キャリアを積んだ後、1987年に独立して同社を立ち上げました。ドライバー時代にはすべてのトラックに乗ったと語る森高様は、現在も車両へのこだわりが人一倍強く、同社の保有するトラックは主力の大型車(10t)から中型車(4t)、平ボディー車、箱車、ウイング車、冷凍・冷蔵車、トレーラー、牛乳を運ぶタンク車、クレーン付きのユニック車までバラエティーに富んでいます。「荷主様のご要望にお応えしているうちに車両の種類も台数もどんどん増えて今では700台を超えてしまいました。ドライバーもグループ会社を含めて約400人雇用しています。大ロットの急な

物流を担い、100年企業を目指して歩み続ける。

COVID-19の影響によりコンテナ不足、輸送遅延が問題となる中、物流の主役としてあらためて存在感を増しているトラック。  
 株式会社ほくうん様は、膨大な数の保有車両と人員を活かして北海道と本州を迅速かつ確実に結ぶ輸送を実現し、力強い成長を続けています。地元の物流会社から独立し、一代で道内トップクラスの総合物流会社を築き上げた創業社長の森高義男様にお話を伺いました。

お客様 見聞録 File 16 株式会社ほくうん





日本電装サービス、冷凍専門の「エムエスライン」といったグループ会社を設立。昨年3月には建機を保有する建設会社「東日本装建」を立ち上げました。同社は、土木や解体などの業務に加え、グループ各社の敷地内の除雪作業も担当しています。「知り合いから紹介されたのがきっかけでキャタピラーとの付き合いが始まり、土木建設への事業拡大を機に油圧ショベルやホイールローダを購入するようになりました。昨年10月にCat 315、12月にはCat 910を導入しましたが、オペレータからは『パワーもスピードもある』と好評です」

今年は例年に比べて雪の日が多く、特に2月に入ってからは一晩で80～90cm積もることも少なくないため、910は毎日除雪にフル稼働の状態だと言います。

### いかなる降雪の中でも、 物流は止められない。

「東日本装建」が除雪を行っている場所は、本社に隣接する駐車場(1万1,000坪)、グループ会社「東日本ほくうん」の駐車場(2万1,000坪)、そして最近購入した農地用の敷地(1万5,600坪)の3カ所。いずれも近場に位置していますが、駐車場は毎朝トラックが出勤する前に除雪を終えなければならないため、オペレータの有馬史様と茂手木直之様2名が本社敷地内の社宅に寝泊りし、深夜から早朝にかけて除雪作業を行っているそうです。「早朝までにきれいに除雪しても油断はできません。先日は昼間に2時間で50cmも積もる降雪がありました。雪は時間を選んでくれませんかから、要請に応じて24時間いつでも稼働できる体制を取っています」

現場を案内してくださったのは、除雪の配車係を兼務されている車両管理部長の澤田 剛 様。多忙なときには自らオペレータとして作業をサポートされることもあると言います。

本社の駐車場では折りしも910と924G、2台のホイールローダが通路脇に堆積した雪をトラックに積み込んでいるところでした。現場ではさらにもう1台、マルチプラウを装備した918Mが、車両の通路を確保するため、昨夜のうちに降り積もった雪を脇へ寄せていました。出入り口付近では315油圧ショベルがアイスバンの破碎・撤去に活躍していました。

その日、910で作業されていた有馬様はオペレータ歴15年のベテラン。「これまで多くの機械に乗ってきましたが、特に進化を感じたのはジョイスティック(レバー)の運転しやすさですね。軽いスナッ



(左から)オペレータの有馬様、茂手木様、澤田部長。  
\*右は日本キャタピラー 道央第1営業部 兼松部長

プ操作で微調整も楽に行えますし、さまざまな機能が一体化されているので、前方から目を離さずに作業できます。機械のサイズも駐車場などで使うのにピッタリだと思います」

一方、924Gに乗られていた茂手木様は、運転を覚えたての新人オペレータ。

「乗り始めてまだ2、3ヵ月しか経っていませんが、澤田部長や有馬先輩から仕事が早いと褒められます。Catマシンのおかげかも知れませんが」

機械の不具合で除雪が滞ると、数百台のトラックの配車にも影響を及ぼします。澤田様は、建機を良好なコンディションに保つため、キャタピラーの札幌北営業所と密に連絡を取り合って維持管理に万全を期していると語ります。

「定期サポートを利用して、点検やメンテナンスはプロのメカニッ



分厚い積雪も軽々と押していく918M(マルチプラウ仕様)。

クにお任せしています。日頃からセールスの堀さん、部品サービスセールスの丹羽さんが協力し合って先手を打ったケアをしてくれるので、不具合の発生件数も少ないですし、機械の調子が悪いときも電話一本ですぐに対応してもらえ、とても安心感があります」

### 100年企業を目指して、 事業規模を拡大。

トラックドライバーからスタートして「ほくうん」を起こし、右肩上がりの成長に導いた森高様。視線の先にあるのは「100年企業」という目標です。

「多くの荷主様のご協力とご支援をいただき、おかげさまで22年間連続の増収・増益を続けています。当社の強みである機動力を最大限に活かしながら、収益性を徹底追求して、今年より来年、



オペレータ歴15年の有馬様(左)と期待のルーキーの茂手木様(右)は、息の合った除雪コンビ。



アイスバンの破碎・撤去は315の役目。

再来年へ、毎年1円ずつでも良いので連続増収を達成していきたいと思っています。物流は減ることがないと信じていますし、その90%はトラック輸送が担っています。当社にはこれからも成長を遂げていくポテンシャルが十分にあると考えています」

今年71歳を迎えられる森高様には、後継者として営業本部長を務められているご息がいらっしゃいますが、「まだまだ現役を退くつもりはない。120歳まで生きる」と宣言し、体力づくりの筋トレを毎日欠かさず行っているそう。成長を止めないために事業拡大にも強気の姿勢を貫き、関東地域を中心とした本州での業務を効率化するため、2020年には茨城営業所(茨城県水戸市)、翌21年には東京営業所(東京都江東区)を開設。西日本、九州への進出も視野に入れ、中京営業所(愛知県江南市)も21年に設置しています。

また、本業の物流業に軸足を置きながら、新規事業の展開にも着手。「食材の宝庫」北海道の地の利を背景に、焼き肉店や寿司屋などの飲食店をオープンすると共に、農業分野でも動き始めています。「910の除雪を見ていただいた農地では、珍しいヒマラヤ原産の赤蕎麦を栽培する予定です。製粉所や販売所を設け、ゆくゆくはオンラインでの全国販売も目指しています。北海道の飲食業もここ数年苦戦を強いられていますが、コロナ禍が収束し、北海道新幹線が開通すればインバウンド需要も再び拡大するでしょうし、地域振興にも貢献できれば良いと思っています。「東日本装建」を中心に建設業にも力を入れていくつもりなので、キャタピラーとの付き合いも今後どんどん広がることになるでしょう」

100年企業を目指して力強く前進するほくうん様を、キャタピラーはより良い製品とアフターサービスで応援していきます。



## キャタピラーファイナンス 特別プログラムのご紹介

5年割賦まで金利1.5% (製品により最大で1.9%)の「特別プログラム」や、お手軽なリース料金で月々のお支払いを抑えながら機械をお使いいただき、リース期間満了時にはご購入も選択できる「オペレーティングリース」をご用意しています。さらに、リースに延長保証、動産総合保険を組み合わせて、毎月定額で手間なく、大きな安心をお届けする「安心パッケージ」もご提供しています。お客様の経営状況や事業プランに合わせて、ぜひご利用ください。

### 特別プログラム 低金利でお得! 5年割賦まで金利1.5% (小型製品 5年割賦まで1.7%~1.9%)

油圧ショベル、ホイールローダ、ブルドーザ、ミニ油圧ショベルなどの新車購入に際して特別な低金利プログラムをご利用いただけます。

下取りや頭金があればさらに有利な金利になるかも!



中・大型製品	油圧ショベル、ホイールローダ、ブルドーザ、土工用振動ローラ、モータグレーダなど	5年割賦まで 金利 1.5%
	ミニ油圧ショベル、小型ブルドーザなど	5年割賦まで 金利 1.7%
小型製品	小型ホイールローダなど	5年割賦まで 金利 1.9%



◎このほかにも、お客様の現場をサポートする各種のプログラムをご用意しています。プログラムによって条件が異なりますので、詳細につきましては販売店の営業担当者、またはキャタピラーファイナンスまでお問い合わせください。

## Good Support! Good Work!



### Cat® Advansys™ エッジ

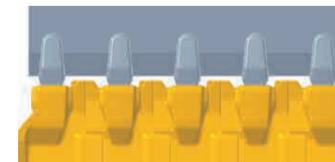
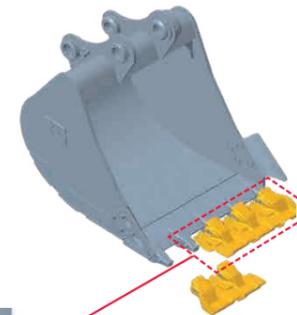
#### 小型・中型油圧ショベル向け整地作業用エッジ

Cat独自のバケットチップ保持システムであるCat Advansysアダプタの小型・中型ショベルの仕上げ整地作業用に開発された「Cat Advansysエッジ」は、高負荷の掘削作業用のチップから、素早く、簡単、安全に取り替えることが可能です。Cat Advansysアダプタに装着でき、ハンマーを使わずに汎用工具で取り付け、取り外しが行えます。



#### 作業性能を向上

- プレートが相互にかみ合うことによりフラットで連続したエッジが形成され、平坦な仕上げ整地が可能になります。
- プレートとベースのエッジの間には隙間がなく、より多量の土砂を保持することが可能になります。

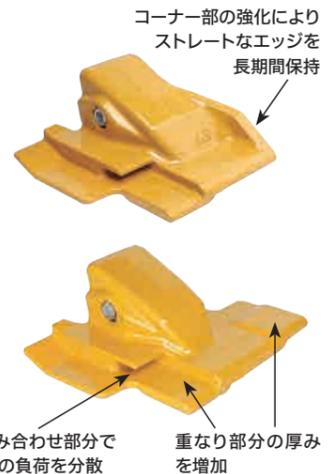


平坦な仕上げ整地  
土砂の保持力をアップ

フラットかつ隙間のないエッジ

#### 耐摩耗性と機能を強化

- エッジのコーナー部に摩耗材を追加し、耐摩耗性を向上させています。
- 現行のCat Advansysチップと同じCapSureロックシステムを採用しており、Cat Advansysアダプタに取り付け可能です。
- 溶接、切断作業、特殊アダプタは不要です。
- それぞれのバケットのアダプタ間隔に合わせて取り付けが可能です。



ソケットのかみ合わせ部分でシステム全体の負荷を分散

コーナー部の強化によりストレートなエッジを長期間保持

重なり部分の厚みを増加

#### 作業用途を拡大

- 用途に応じて、高負荷の掘削作業用チップから土砂の仕上げ整地作業用エッジへ取り替えが可能です。
- 標準のCat Advansys 70および80サイズクラスのアダプタに取り付けが可能です。
- CapSureロックシステムにより迅速かつ安全に取り替えることができます。

YouTubeでも取り付け、取り外し方法の解説動画を配信しています。



#### 〈Advansysエッジの取り付け、取り外し方法〉

- 1 右コーナー部のチップから取り付け開始



- 2 リテーナーを時計回りに180°回すと「ロック」、反時計回りで「ロック解除」



- 3 中央部、左コーナー部の順に同様の手順ですべてのチップを取り付け



◎Cat Advansysエッジの詳細につきましては、最寄りの販売店にお問い合わせください。

# 独自のテクノロジーで生産性をアップ 次世代ブルドーザ Cat® D7



	D7 LPG	D7
運転質量	28,677kg	29,776kg
ブレード容量	7.42m <sup>3</sup>	6.20m <sup>3</sup>
接地圧	48.0kPa	80.6kPa

## ■ 伝統のハイスプロケットデザイン

ファイナルドライブを車体重量支持から解放し、地上からの衝撃を回避するハイスプロケット構造により、車両バランスと耐久性の向上、パワーロスの低減を実現。足回りに土砂や泥が堆積しにくく、モジュラー設計により部品の交換も容易に行えるため、メンテナンス性にも優れています。

## ■ 時間当たり作業量 最大 8% アップ※1

車体重量をアップし、一段と強化されたけん引力と大きなブレードにより時間当たり作業量を最大8%向上。ロックアップ付きトルクコンバータを備えた4速オートシフトトランスミッションは、負荷に応じた自動変速で最適なタイミングでのシフトチェンジを実現するため、より効率的な作業が可能になります。

※1 当社従来機D7Eとの比較



## ■ Cat テクノロジ 生産性 最大 50% アップ※2

### ■ ステイブルブレード

車体の姿勢に応じて、ブレードのレベルが一定になるよう自動調整。少ない労力で滑らかな仕上げを実現します。

### ■ ブレード負荷モニター

ブレード負荷をリアルタイムに検出し、車両が抱えられる最大負荷と現在の負荷をグラフで表示。オペレータの操作をサポートし、つねに車両の能力を最大限に生かした作業が可能になります。

### ■ Catグレードスローアシスト

追加のハードウェアやGPS信号なしで、最適なブレード角度を自動的にキープ。素早く効率的に勾配施工を行うことが可能です。

## ■ 安全性を向上

### ■ リアビューカメラ

車両後方の様子をクリアな映像でモニタ表示するリアビューカメラを標準装備。車両と作業員の接触防止に効果的です。

### ■ オートキャリー

ブレード負荷が高くなると、足回りスリップが起こらないようブレードリフトを自動調整します。粗掘削時に効率的な作業が可能です。

### ■ トラクションコントロール

スリップを自動的に減らし、施工時間、燃料消費、足回り部品の摩耗を低減します。

### ■ Catグレード3D (オプション)

内蔵型のマシンコントロールシステムで設計データに基づきブレードを自動制御。新型センサ採用により高速・高精度な施工を実現するとともに、操作しやすい新型ディスプレイを採用し、オペレータの作業効率も向上します。

※2 Catテクノロジーを活用しない施工方法との比較

### ■ フェンダーガードレール

燃料・尿素水の補給やメンテナンス時に、車両からの転落を防止するフェンダーガードレールを装備しています。



持ってますか?  
この資格

## アーク溶接作業の話

令和3年4月1日から労働安全衛生施行令等が改正され、アーク溶接作業を行う際に必要となる対策が増えています。今回は、新たに義務付けられた対策の内容をご紹介しますので、これらをしっかり実施し、より安全な作業を行うように努めましょう。



アーク溶接作業を行う際には、①感電防止 ②目や皮膚の保護 ③じん肺※1予防のために、右図のような保護具を着用することが重要です。特に③のじん肺は、作業中に発生する「溶接ヒューム」を長期にわたり多量に吸い続けることで発症するため、呼吸用保護具として防塵マスクを使用する対策が取られてきました。

※1 肺内に粉じんが沈着して起こる病気。初期には自覚症状がありませんが、進行すると痰や咳、息切れ、呼吸困難などの症状が現れます。



「溶接ヒューム」とは、アーク溶接の熱によって気化した金属が、空気中で冷やされて微小な粒子となったもので、私たちの目には煙のように見えます。

近年、「溶接ヒューム」が、じん肺以外にも作業者に神経機能障害、発がんなどの健康障害を及ぼすおそれがあることが明らかになりました。これを受けて、厚生労働省では、労働安全衛生施行令、特定化学物質障害予防規則等の改正を実施し、「溶接ヒューム」を特定化学物質(第2類物質)として指定しました。

改正省令・告示は令和3年4月1日から施行・適用されており※2、アーク溶接作業を行う場合は、これまでの対策に加え、下記の改正による措置を講じなければなりません。

※2 一部経過措置があります。

## 屋内作業場でアーク溶接作業を行う場合の措置

### 1 全体換気装置による換気等 (令和3年4月1日から実施義務)

全体換気相当のプッシュプル型換気装置、局所排気装置でも可能です。

#### ●全体換気イメージ



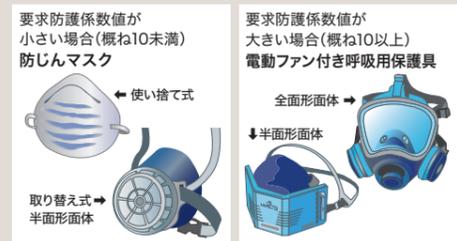
### 2 空気中の「溶接ヒューム」濃度の測定 (令和4年3月31日までに測定完了)

作業環境測定機関、第1種作業環境測定士などにより、個人ばく露測定を行う必要があります。



### 3 濃度測定結果に応じた呼吸用保護具の使用 (令和4年4月1日から適用)

2の測定結果から算出された「要求防護係数」の値に適した呼吸用保護具を選択する必要があります。



### 4 面体を有する呼吸用保護具使用の場合のフィットテスト (令和5年4月1日から適用)

1年以内毎に1回、呼吸用保護具を着用した状態でその内側と外側での溶接ヒューム濃度を測定する必要があります。全面形面体、半面形面体ともテストが必要です。

### 5 特定化学物質作業主任者の選任 (令和4年4月1日から適用)

作業場に「特定化学物質作業主任者技能講習」の修了者の中から選任配置する必要があります。作業主任者は作業方法の決定指揮、全体換気装置点検、保護具使用の監視などを行います。

### 6 特殊健康診断の実施 (結果は5年間保存)

6か月以内毎に1回、定期的に行い、診断結果報告書を労働基準監督署長に提出する必要があります。

(厚生労働省 アーク溶接)

右のQRコードよりパンフレットにアクセスしてください。

■ 屋内作業場 ■ 屋外作業場

キャピラー教習所では、アーク溶接作業の特別教育を定期的に開催しています。この特別教育では、上述の法改正内容を含めアーク溶接作業員として必要なことを学科と実技を通じて学ぶことができます。詳しくは、お近くの各教習センターへお問い合わせください。

技能講習・安全教育のご用命はこちらまで /  
キャピラー教習所株式会社

本社：〒253-0111 神奈川県高座郡寒川町一之宮7-11-1  
TEL 0467-73-1221 FAX 0467-73-1211  
ホームページアドレス http://cot.jpncat.com

詳細は

キャピラー教習所 検索





# コミュニケーションの話

大勢の作業員が忙しく立ち働く建設現場では、コミュニケーションによる情報共有や意思の疎通がとても重要です。メンバー同士のコミュニケーションがうまく取れているかどうかは業務の効率だけでなくミスや災害の発生リスクも左右します。年度初めは新入社員を迎えたり職場の異動などで環境が変わり、新しい人と接する機会が増える季節です。コミュニケーションを円滑にする方法を確認してみたいですか？



「作業指示が十分に伝わってなかったり、誤って伝わってしまったためにトラブルが発生してしまった」— 皆さんもそういう経験をお持ちではありませんか。建設現場でのコミュニケーション不足やコミュニケーションエラーは、業務に支障をきたすだけでなく、災害の発生要因となることも少なくありません。特に、工事の進捗につれて作業内容が変わり、メンバーも入れ替わる現場では、管理者と作業員あるいは作業員同士が十分にコミュニケーションを取り合えば、どこにどんな危険の芽が潜んでいるか把握できず、重大な事故につながる可能性が高まります。

世代が離れていたり持ち場が違ったりすると、ついコミュニケーションがおろそかになりがちですから、いつものあいさつに一言添えたり作業の合い間に声を掛け合ったりして、日頃からオープンに話せる関係づくりを心掛けるようにしましょう。



感謝 ← 労い ← 励まし

ちょっとした一言で人間関係はスムーズになります

さらにコミュニケーションエラーを防ぐためには、話し手が自分本位で伝達するのではなく、相手にしっかり届いているか確認しながら、正確に伝える努力を惜しまないことが大切です。

## 作業を指示するときの心得

- 「それ」「こんな感じ」などといったあいまいな表現を避け、5W1Hを踏まえて具体的に説明する。
- 必要な場所へ行って手本を見せながら自分の体験などを通して話をする。
- 最後にわからないことや質問がないかしっかり確認を取る。
- 言葉だけでなく、図面や身振りなどの視覚的な手段も使って理解を深める。



作業開始後に相手の行動を観察し、指示が正しく守られているか確認するようにしましょう。

昨今はCOVID-19の感染拡大の影響を受け、建設現場でもマスクを着けたまま作業を行うことが日常的になっています。感染予防のマナーとしては必須ともいえるマスクですが、マスクをしていると声がかもってしまい言葉が聞き取りづらくなる上に、相手の表情や反応も読み取りにくくなるため、円滑なコミュニケーションの実現にはいつも以上に工夫と配慮が必要です。

## きちんと伝わるマスクコミュニケーションのコツ

- 声がかもるので普段より少し大きめに。
- 言葉はゆっくり丁寧に、滑舌よく話すことを意識する。
- 唇の両サイド(口角)を上げる意識を持つと声をはっきりする。
- うなずきなどの仕草をいつも以上にオーバーに行い「伝わっていますよ」と相手に示す。



## 今日のワンポイント

### 言葉の選び方でワンランク上のコミュニケーションを心掛けてみましょう！

同じことを話すにしても、言葉の選び方ひとつで相手のモチベーションもその場の雰囲気も大きく変わります。日頃からネガティブな言い方を避け、ポジティブな言葉づかいを意識して明るく前向きな職場づくりを目指しましょう。

#### ● 職場でよく使う言葉の言い換え

- 仕事が遅い → 仕事が丁寧だ
- 自己主張が強い → 自分の意見を持っている
- 理屈っぽい → ロジカル、論理的だ
- 優柔不断 → 思慮深い
- こうしてはダメ → こうしたらよくなる
- 強引 → リーダーシップがある、行動的だ



#### ● 文例

これまでのやり方を見直してもらいたい  
→ 新しい進め方にしたいので、この方法で問題はないかチェックしてもらえますか？

現在の業務から外れてもらうことになった  
→ 今回は〇〇さんの手を煩わせずに済みそうなので、他の業務に取り組んでください

もう少しやる気を出してほしい  
→ みんな、あなたに期待しているよ

自分が言われたくない言葉は言い換えるようにしてみましょう。

## TOPICS

# キャタピラー・ジャパン 公式LINEアカウントを開設しました

一世紀にわたるキャタピラーの歴史や日本における活動、ビジネスソリューションを楽しく紹介する Cat® Trialなど、さまざまな情報を発信していきます。ぜひ、「友だち追加」から「QRコード」または「ID検索」でご登録ください。

キャタピラー・ジャパン公式LINEアカウント



QRコード



ID @caterpillar



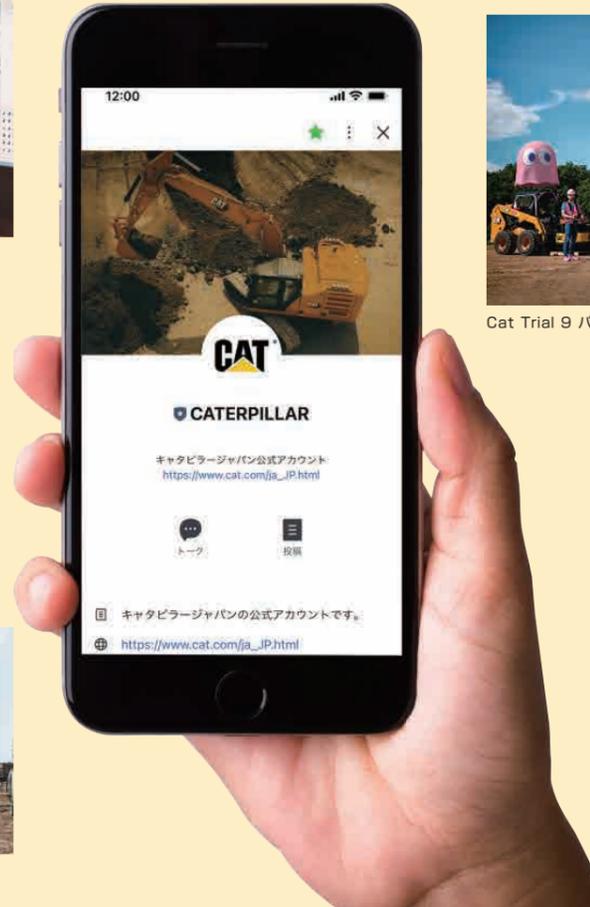
Caterpillar industrial design



ブルドーザ試作機No.77



1900年頃の蒸気トラクタ



Cat Trial 9 バックマン



Y35全油圧式ショベル

## PRESENT ご愛読者プレゼント

「CAT CLUB No.115」のご意見、ご感想をお寄せください。抽選で3名様にCatグッズをプレゼントいたします。

次世代油圧ショベル320 1/50 スケールモデル 3名様

ご当選者には、セールスマンが賞品を直接お届けいたします。

お届けの際、賞品の色などが見本と異なる場合がございますが、あらかじめご了承ください。



#### 〈応募要領〉

必要事項を記載いただき、下記メールアドレス宛にご応募ください。

- お名前 ■ ご住所 ■ 連絡先のお電話番号 ■ 会社名
- 「CAT CLUB」へのご意見・ご感想

〈応募先アドレス〉 cat-club-japan@cat.com

〈応募締切〉 2022年6月10日(金)



ご提供いただきました個人情報は、当社の個人情報保護方針に基づき、今後の商品開発・販売促進などに利用させていただきます。当社の個人情報保護方針は、当社ホームページからご覧いただけます。

<https://www.caterpillar.com/ja/legal-notice/dataprivacy.html>

# 次世代 ホイールローダ 登場。

## 優れたテクノロジーで 新しい価値を創造する Cat® 980 / 982

次世代ホイールローダは、現場で役立つテクノロジーを標準装備し、高い生産性と低いオペレーションコストを両立したホイールローダです。ゆったりとしたキャブや広い視界、操作しやすいジョイスティックステアリング、Cat®ペイロードによる正確な計測。オペレータのための快適な作業と現場の効率化を実現する新しいCatホイールローダを体験してください。



生産性を  
最大10%向上\*

メンテナンスコストを  
最大20%削減\*

\*従来機980M/982Mとの比較

キャタピラー [http://www.cat.com/ja\\_JP/](http://www.cat.com/ja_JP/)

CAT CLUB編集室 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1  
TEL.045-682-3424

CAT CLUBメールアドレス [cat-club-japan@cat.com](mailto:cat-club-japan@cat.com)

©2022 Caterpillar. All Rights Reserved. CAT, CATERPILLAR, LET'S DO THE WORK, それらの各ロゴ、\*Caterpillar Corporate Yellow\*, \*Power Edge\*, およびCat \*Modern Hex\*のトレードドレスは、本書に記載されている企業および製品の識別情報と同様に、Caterpillar社の商標であり、許可なく使用することはできません。記述の内容と仕様は、予告なしに変更されることがあります。写真には、海外仕様の製品およびオプション装備品が含まれていることがあり、国内仕様と異なる場合があります。

CC-115-0(0322)



CAT CLUB デジタル版も  
好評配信中!



この印刷物は、環境にやさしい植物油インキを使用し、水なし印刷を採用しています。  
用紙には適切に管理された森林で生産された木材を原料に含むFSC®認証用紙を使用しています。